

イブキノモソモ		<i>Poa radula</i> Franch. et Sav.	絶滅危惧Ⅱ類
		イネ科	
選定理由	もともと生育地が極めて限られているうえに、個体数も少ない。		写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	根茎は短い。稈は直立し、高さ30-150cm。葉身は長さ20-30cm、幅5-10mm。葉鞘はやや扁平。花序は先が垂れ、長さ20-30cm。小穂は3-8小花からなり、長さ4-7mm。		
生態的特徴	イネ科の多年草。花期は6-8月。亜高山帯の草原に分布する。		
分布状況	北海道とから本州中部地方に分布し、ウスリーからカムチャッカに分布する。岐阜県では、県南西部にのみ見られる。		
減少要因	道路の拡張や維持のための工事。また、登山者や観光客による踏みつけ、ササやカンボク、マユミなどの低木による遷移の進行。		
保全対策	生息環境の保全。滋賀県側の山頂草原は国指定の天然記念物に指定されている。		
特記事項			
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ 保育社 1964 日本の野生植物草本Ⅰ 単子葉類 平凡社 1982 増補日本イネ科植物図譜 平凡社 1993 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県 2005 長野県植物誌 信濃毎日新聞社 1997		

文責:福岡義洋